

令和3年度 学校図書館教育研究部 知多地区 活動報告

1. はじめに

知多地区では学びをひらき、豊かな心をつちかう学校図書館と主題を設定し各市町で研究をすすめてきた。本年度は、10月にそれぞれの研究の成果を発表し合う研究集会を実施し、講演や研究発表、情報交換などを実施する予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため集会は中止となり、紙面発表でそれぞれの市町の取組を紹介することとなった。

ここでは、各市町の取組について、いくつかを簡単に紹介したい。

2. 各市町の研究

① 地域との連携

多くの市町で、その地域にある図書館や地域住民によるボランティアなどと連携を図り、子どもたちが、本により親しめるような取組を行っている。

常滑市では、地域の読み聞かせボランティアによる読み聞かせ会を年一回実施している。低学年への読み聞かせでは、パワーポイントを使った読み聞かせと腹話術、歌を用いて児童を物語の世界へと引き込んでくれる。思わず声を上げて笑ったり、目を輝かせて話に聞き入ったりするなど、本への関心の高まりを実感することができた。高学年への読み聞かせでは、ブラックシアターを用い、オリジナルの効果音や演奏に合わせた読み聞かせを行った。趣向を凝らした読み聞かせに興味津々の様子で鑑賞する児童の姿が見られた。



〈本の巡回の様子〉

半田市や東海市では、市立図書館より絵本、児童書等のセットが貸与され、一定期間ごとに巡回する取組がある。各学級に設置され、朝の読書タイムや放課などにその本を読むことができるため、子どもたちにとって、より身近に読書に親しめる環境づくりとして効果をあげている。

② 利用したくなる図書館づくり

また、各市町では、子どもたちが利用したいと思えるような図書館づくりを心がけている。

武豊町の小学校では、本を封筒に入れて中身が分からないようにして貸し出す「本のおみくじ」や図書館の本に無作為にはさまれたしおりを、その本を手にとったらもらえるというキャンペーンを行い、子どもたちが図書館に行きたいと思わせる催しを実践した。

大府市の小学校では、ブックスタンドを利用して本の表紙を見せて興味をもたせる工夫や、本の表紙の色を活用し、本を並べると虹ができるように配架する取組などを行い、子どもが手に取りやすい図書展示を考えていた。



〈表紙の色で虹を作って展示〉

他にも、毎月、図書館だよりを発行し「図書館おすすめの一冊」や「図書委員おすすめの一冊」等を掲載したり、読書週間に図書委員の推薦する本を展示したりする中学校の取組も紹介され、身近な存在からの薦めにより、興味をもつことができる工夫をしている活動も報告された。

3. おわりに

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、思うような図書館の活動ができないこともあった。しかし、その中でもそれぞれの学校で、試行錯誤しながら子どもたちが活用しやすい図書館となるよう工夫してきた。今後も、さらに子どもの足が向く図書館づくりを目指したい。